

「ロバート劇場」

作：白井 京月

混ぜるな危険！

ロバート劇場のあじわいかた

いとうぎいつ

http://www.f3.dion.ne.jp/~geetu/mirror_of_geetu/

ロバート劇場。

この、知性と痴性あふれる奇妙キテレツな言葉の洪水を、いったいどう捉えたらいいのだろう。

私は盲人と象の話の思い出した。たしかこういう話だったと思う。ある時、数人の盲人たちが未知の動物（象）に遭遇し、触ってみることにした。一人は象の胴体を触り「これは壁のようなものだ」といった。もう一人は象の牙を掴んで「鋭い槍だ」といった。別の一人は象の脚を触って「高くて丸い樹だ」といった。最後の一人は象の鼻に触り「長くて柔らかい蛇だ」といった。それぞれの盲人が触って認識した象は部分的に正しかったが、象の実像を捕らえることができなかった。……というお話。

同じように、ロバート劇場に触れた人はさまざまな反応をするだろう。ある人は笑い出し、ある人は怒り出し、考え込む人もいるかもしれない。まれに気分が悪くなったり、泣き出したり、いきなりフリーズする人もいるかもしれない。その反応は未知数だ。

盲人と象の話は「真実を知ったつもりでも、物事の一面しか捉えていないことがある」という教訓の話だが、ロバート劇場には教訓やオチはない。もちろん、その全体像は象ではないだろ

う。

じゃあ、いったい何？

作者はあとがきで堂々と、こう言い切っている。「私にとって、詩とはある種の発作です。次に詩を書くのがいつになるのかは予測もつかないのです。詩を書くこと。それは生の営みでも、宿命でもなく、発作。」

ロバート劇場を味わう為に全体像を把握するスキルはいらな
いらしい。ただ自分の感性で、素直に向かい合うことだ。もし
かすると、ロバート劇場はあなたの無意識の何か（イド？）と
接触し、おもしろい（かなり危険な？）化学反応をひき起こす
かもしれない。ご用心！

目 次

第一幕

1. 書かない詩人
2. お気楽列車に乗って
3. 囚人達の歌
4. 世界を知らない人々と同じく
5. ドッペルゲンガー
6. どこまでも、どこまでも

第二幕

1. 突然の詩人
2. 酔詩（よいし）
3. 大蛇
4. 自然には正常も異常もない
5. 変人讃歌
6. 夢と現実は等価である
7. 世界は雨

第三幕

1. 世界という奴は
2. ドレミの歌
3. 新しい世界に向けて
4. 雇用主義に終止符を
5. 絶望

6. 生の敗北

第四幕

1. ロバート音頭
2. 壁は幻想
3. 飛ぶ時
4. 国会へ
5. ロバート街道ばく進中
6. ある一日

第1幕

1. 書かない詩人

詩人になれよ、と、あの娘は言った
そう、詩を書かない詩人に
心の中で、詩を歌う詩人に
詩人は、空中に粒子をバラ撒く

2. お気楽列車に乗って

意味不明であることをご承知いただきたい
ただ、文字を躍らせるだけ
意味だとか、価値だとかは・・・
ああ、そんなの関係ない！

お気楽列車で行こう
とりあえず、お気楽列車に乗ろう
お弁当も持たなくて良い
どこに行くかなんて知らなくて良い

どうでも良いというやり投げな感じで
あ、やり投げじゃなくて、投げやりか？
別に酔っ払ってはいないよ
狂気と正気の境目を彷徨って
重たい時間だけは、もう勘弁だ

あくびが出たらあくびちゃん
おならが出たらおならちゃん
では、くしゃみが出たら？
はい、花粉症です

ルナティックを気取ってるんじゃない(*1)
本当にルナティックなんだ

コニャックでもアルマニャックでも同じことさ(*2)(*3)

ただし、翌日は休日が良い

ウイークエンドはいつからなのだろう？

金曜日からか？

それとも土曜日からか？

ああ、そんなの関係ない！

漂流記

氷河期

聴診器

それより注射器が良いで

パンクなバンクに貯金しよう(*4)

言葉なんてさ、

文字なんてさ、

所詮は遊び道具なんだ

公式文書だ、法律だ、演説だ????

それがどうしたってんだ

やめてくれよ

言葉で遊んで何が悪い

そういや誰かが言ってたね

言葉は最強の凶器だって

慎重に扱わないといけないって

どうだろう

それは言葉のせいだろうか？

傷と痛み

それは言葉のせいだろうか？

すべてをお気楽に還元して

すべてをお遊びに還元して

そう、シニフィエを放棄して(*5)

ふん。シニフィエだってさ

誰か説明しといて下さい

発狂は加速するんだ

言語の解体

脱構築に何が出来たのか(*6)

アサダーメの逃走論は、どこへ消えて行ったのか(*7)

言葉にのっちはいけないのだよ、デリダ君(*8)

こうして、私は裸になって行く

わお、ヌードだ！！

まあ、ここまで来ると誰も読んではいないだろう

つまり、誰も見ちゃいないだろう

安心と油断

お気楽だから、どうでも良いんだ

本当に酔っちゃいないよ

ちょっと発狂してみただけさ

そう、発狂は正常だ

上手い説明というのはね
アナロジーと統計とメカニズムの黄金比(*9)
この黄金比は複数あるはずだ
それが解明できれば、メノムを生成できる(*10)
概念の錬金術さ(*11)

夢だったんだ、すべては
現実もまた夢
胡蝶の夢(*11)

何が言いたいのかを問うのは無駄だ
それが分かっていたら、私は書かない
分からないから踊っているんだ

幸福？
ああ、そんなの関係ない！

形式、権威は、ケケケのケ
公式、公理は、コココのコ

意味を放棄して
意味を放棄して
意味を放棄して

ただ、踊ろうよ、文字達

今夜は、踊ろうよ
そんな気分だから

- *1 ルナティック：lunatic(英)狂気の、月に影響された、など。
- *2 コニャック：Cognac（仏）フランスのコニャック地方で作られるブランデー。
- *3 アルマニャック：Armagnac（仏）フランスのアルマニャック地方で作られるブランデー。
- *4 パンク：反抗精神を示す言葉。1970年代のパンク・ロックから。
- *5 シニフィエ：言語学者ソシュール(1857-1913)の作った概念。言葉の意味内容を言う。対概念はシニフィアン（言葉持つ音）
- *6 脱構築：哲学用語。ディコンストラクションの日本語訳。哲学者デリダの用語だと日本のネットでは述べられているが、私は真相を知らない。
- *7 アサダーメ：浅田彰(1957-)の誤り。もちろん意図的に間違えた。「逃走論」(1984)は、その主著。哲学者。
- *8 デリダ君：アルジェリア出身のフランス人哲学者、ジャック・デリダ(1930-2004)。著作に「言葉にのって」がある。
- *9 アナロジー：類推、類比。何かに喩えること。
- *10 メノム：情報解釈系の総体。遺伝子情報におけるゲノムに相当する。(進化情報学、石川幹人氏の論文に基づく)
- *11 錬金術：説明すると長くなるので省略する。分からなければ調べていただきたい。ただし、調べれば調べるほど分からなくなるというのは常である。
- *12 胡蝶の夢：荘子の思想を表す代表的逸話。「夢を見て蝶となり、夢から覚めて人になるのか。それとも蝶が夢を見て人となっているのか。」といったお話。

3. 囚人達の歌

従順な子羊
飼いならされた犬
あるいは囚人
それを自覚するのは勇気のいることだ

しかし、それは誰にとっても現実
社会というものの現実
世界というやつの姿

自由だって
そうさ、自由さ
有限の自由を自由と言うならね

抑圧だって？
溜めるなよ
考えるなよ
気ままに行くか
発散しようぜ

どうしようもないんだ
俺達は囚人なんだ
仲良くやろうぜ

嫉妬なんてやめておけ
奴らだって囚人なんだ
仲良くやろうぜ

良いじゃないか
ほんの少しの空間と
ほんの少しの時間と
ほんの少しのお金と

それで楽しめれば
それで良いのさ

明日なんて知らないよ
希望なんて無い方が良い
刹那的になるんだ
もっと刹那的になるんだ

怖がることはない
どうせ俺たちは囚人なんだ
墓場に行くまで囚人なんだ
そうだろ

*13 刹那：時間の最小単位。今、この瞬間。刹那的とは、今、この時だけを
考えて生きること。

4. 世界を知らない人々と同じく

世界を見るのは偉い人だけ
飢餓の映像を見てやるせなく思い
空爆の様子を見て憤りを感じる
でもそれはすべて現実

宇宙のことを考えれば良いのさ
宇宙には何があるかわからない
何が幸福で
なにが不幸かもわからない

そんなものは言葉の遊び
目をそらしてるだけだって？
そうかもしれない
でも私に何が出来る？
でも貴方に何が出来る？

知ること（本当に？）
思うこと（知らないのに？）
愛すること（ああ・・・）

余裕はあるか
その余裕をあげられるのか
それが何かの足しになるのか

恵まれないとはどういうことか
どうということか
いろんなこと
そんなこと
あんなこと

貴方は
大邸宅に住み
毎日、豪華な料理を食べ
健康で好きな事ができる

しかし、話相手がいない
いない
いない

挨拶くらいは出来る
でも
そうじゃない

分け与えればそれで良いのか
それが本当に望まれているのか

彼らは世界を知らない
彼らは映画を見ているだけ
いったい何を共有してる

相互作用なんて無い
あまりに一方的なのが現実さ
ワンサイド
オフサイド
インサイド

想像力と妄想の境界はどこか
そういう話は疲れる

映画でも見に行きましょう
それとも、コンサートに
美しく、素晴らしくて、それが何だろう
そんなものは、麻薬と同じだ

余計に、いらいらさせられる
未来を考えないことにしようか

考えるとつまらない
何が起こるか分からない方が自然なのだし
見え透いた明日なんて
明日じゃないし

5. ドッペルゲンガー *15

安物の香水の匂いの淫靡さ
堕ちて行くことへの誘惑
そして
決して墮落へとは至らない狡さ

人生の残り時間を思いながら
素晴らしい過去を思い出そうと腐心しながら
薄れて行く記憶が恨めしい

あの時、歯車が狂った
そう、あの朝

ベットから起きようとした私は
布団を取った
しかし、布団はラッキョの皮のように
何枚も何枚もあって
いくら布団を取っても汗が出るだけだった

ふと横を見ると
すでに服を着替えて
鞆を持った私が、私の方を向いてほほ笑んだ

ドッペルゲンガー

私は震えた

どちらが本当の私だったのか

その時から、秀才だった私はいなくなった

別人のように学習能力がなくなり

別人のように病に落ちた

あの私は今、別の時空で生きていいるのだろうか

それとも、あれは、ただの夢だったのだろうか

あの時、何が起こったのか

偶然とは時に過酷である

それは、怠惰への言い訳なのだろうか

責めるなよ

きっと最善を尽くしてきたんだ

いくつの時空に

何人の私がいようとも

それはもはや私ではないのだ

ドッペルゲンガー

ドッテンボタン

それは今も、私の中にある

*15 ドッペルゲンガー：自分の姿をした第3者を見ること。その深い意味は調べていただきたい。

5. どこまでも、どこまでも

どこまでも資本主義 *16

どこまでも雇用主義 *17

どこまでも、どこまでも、どこまでも

抗うなんて自慰行為 *18

それでも抗う示威行為 *19

そうさ、日本は戦争中

毎年、自殺者3万人

彼らはみんな戦死者さ

ビジネスマンは、みな戦士

そうさ、世界も戦争中

それでも戦死者多いのは

自殺大国と言われるのは

どうしてなのかも明白なのだが

口に出したら非国民

待ってましたの窓際族

起業、起業と騒ぐのは

落ちこぼれの自慰行為

まあ、誰も見たくはない

それでも、商売は上手く行く

ビルダーバーガー *20

ハンバーガー

私は小道を歩くのさ

小道ちゃんとは会えないけれど

あの日の思い出忘れない

ある人が言っていた

感受性と分析力のある人は

日本社会に適応しにくいとね

まあ、そんなものさ

ベクトルを合わせる気なんてないよ

私は冷徹に分析する

私は冷徹に観察する

*16 資本主義：定義は多数あり、学者間での諍いが絶えない。その論争は政争でもあり、国際政治の主戦場であるとも言える。

*17 雇用主義：雇用制度を中心とした経済システム。筆者の造語か。

*18 自慰行為：マスターベーション、オナニーに同じ。

*19 示威行為：威力、勢力を示すための行為。

*20 ビルダーバーガー：ビルダーバーグ会議の出席者。筆者の造語か。

第二幕

1. 突然の詩人

希望は、背後にはない
言い直そう
恐怖は、希望の影だ

一番好きな音楽は雨
二番目に好きな音楽は波
三番目に好きな音楽は風

詩人は、突然やってきた
詩人とは何か

詩人は跳躍する
理性と感性の裂け目を走る
時空を断絶する
そして、新しい世界を拓く

すべての声を吸い込み
一瞬の内に消し去る

それは、シャーマンだろうか *21
それは、マジシャンだろうか

それは、何と呼ばれようと問題ではない
詩人はただ、呪いを解く
何重にもかけられた呪いを解く

言葉は呪いの道具だ
だからそれは
慎重に
細心の注意をもって
そう、劇薬のように
扱わなくてはいけない

言葉は、すぐに死ぬ
言葉は、すぐに殺す
死んだ言葉こそ、呪いの道具だ

今、死んだ言葉が氾濫していないか
死んだ言葉で書かれた本が、山積みになされていないか
死んだ言葉で講演が、会議が、会話が行われていないか

死んだ言葉を墓場に葬るのも詩人の役割だ
詩人は、突然に現れる

*21 超自然的存在と交信、交流できる人。巫女など。

2. 酔詩（よいし）

酔って詩を書くことを＜酔詩＞という

間違っても＜すいし＞と読んではいけない

＜よいし＞と読む

酔えば酔うほど、良い詩が書ける

賭ける

欠ける

何を賭ける

何が欠ける

いつも何かを賭けている

いつも何か欠けている

そう思うことが、もはや呪縛だ

変化に必要なのは

得ることではなく

捨てること

捨てることで

呪いは解ける

呪いの言葉と絶縁しよう

それは、日常の中にあって
呪いとは気がつかない言葉
あ、これが呪いなんだ
あ、あれは呪いだっただ

ある人の日記を読んで
額いた

賭けることを怖れない
欠けることを気にしない

書くとは
賭けること

書くとは
欠けること

そして
駆けること

3. 大蛇

にしきへびの体調は

いや、隊長は

いやいや、体長は、160メートル

その太さは70センチメンタル

いや、70センチメートル

そこに蜜蜂が飛んできて

そこにカラスが飛んできて

みんな退治に大忙し

私はマムシの頭を握り

ギュッと潰して殺しました

どうしてこんな大蛇ばかりが

ここには生きているのだろう

なんでだろう

考えたってしょうがない

戦うんだ

戦うんだ

大蛇を追いかけて見えなくなって
にしき蛇

錦蛇
二色蛇

蛇はまだ動いている

4. 自然には正常も異常もない

嵐の後は静かだというのが相場だった
しかし、嵐は嵐になり嵐が嵐だ

海岸は流木で埋め尽くされ
傾いた家々が不思議な風景を作る
空は赤く黄色く緑だ

星はいちだんと大きくなり
月は黄色さを増した

もうすぐ夜がやってくる

夜になると・・・
雨が降り
風は強くなり
雷がなる

そしてまた地震だ

異常の連鎖

そうは言っても
自然に異常も正常もあるものか

すべては正常か
すべては異常か
そのどちらかでしかないだろう

生命とは正常なのか
生命とは異常なのか

自然科学に正常も異常もない
正常や異常というのは社会的な約束事
社会的な判断にすぎない
そんなものだ

今の目の前の光景は
何となく美しい

ならば
それで良い

悲しくても
嬉しくても
それで良い

5. 変人讃歌

変な人と
変でない人が
います

でも
変でない人って
変な人ではないでしょうか

そうすると
人はみんな
変な人なんだと思います

私は正常よと主張する人は
とても変な人です

私は変な人よと主張する人は
もちろん変な人です

変です
変です
で、変ってなんでしょうか

それは差異性です

差異があるから
生命は成立し
進化したのではないですか

すべては差異から生まれるのではないですか
差異があるから
面白いのではないですか

みんなが神様で
ここが天国で
誰もが永遠の生命を持ち
誰もが高潔で
そして事件も何もない世の中

そんな天国は楽しいですか

ある人の印象的な言葉
人は一人では弱い存在なんだ
仲間を作ることで人は強くなるんだ
とかね

個人主義との融合
あるいは反個人主義

漱石の「私の個人主義」を読むのが良いのでしょうか
漱石って躁うつ病だったそうですね

それがどうした
ってなもんですけどね

みんな変人
その変人ぐあいを大切にしたい

でも、世の中は逆方向ですよ
鋳型に入れて
働かせる

人間の行動をマニュアル化して
機械へと変身させようとする

そんな圧力に負けてはいけません
絶対に負けないぞ

生きるとは
変人として生まれ
変人として死ぬこと

題して
変人讃歌

6. 夢と現実は等価だ

ある時思ったんだ
あの娘を夢の中で抱いたのと
本当に抱いたのと
どう違うのかってね

夢の記憶が鮮明で
思い出す事が出来るなら
夢も現実も同じじゃない

あ、また観念が入ってる
いかんいかん

そう、あの時は誰もいない田舎の道
二人はイチャイチャ
良い感じ

まだ昼間だけど涼しくて
服を着たままやりました

それは大切な思い出なんだけど
今までで一番良かったな
夢なんだけど

昔書き留めた夢日記

編集して物語にしようか
とんでもない変てこな物語になるぜ

オタクが青ざめること請負さ
飛行機と船が一体化するんだからね
S F 小説も追いつけまい

良いのか明日は仕事なのに
良いんです
そんなことは明日が解決します

2時に寝れば良いんです
これが本当の虹の理論 *22

でも、夜の虹は見たことない
誰か虹花火をつくってちょ

二時の虹
二児の二時
日本語って変なの

いいもん
ぼくちん日本語しか出来ないもん
それもへんてこな日本語ざますしね

きっと言葉が過剰なんだよ

溜めてちゃダメさ
吐き出さなきゃ
空っぽになるまで吐き出さなきゃ
で、いつ空っぽになるの

しーらない

*22 虹の理論：宗教学者、中沢新一(1950-)の著作のタイトル。「虹の理論」
(1990)

7. 世界は雨

目覚めたみたいよん

ワ・タ・ク・シ

炸裂、破裂、爆発、暴発

ひとことと言えば決壊ね

もうどうにも止まらないワ

ア・タ・シ

どこまでも言葉を吐き出してあげる

そう、この雨はやまないのよ

世界はこれから毎日雨だわ

太陽なんて、そのうち忘れるから

いいわね

黒魔術

赤魔術

黄魔術

結界では兎と梟がダンスしてるわ *23

久しぶりにタロットを触ろうかしら

女教皇の正位置 *24

深い知識はいいけど
性愛を望まない

って、どうよ
どうよ
どうよ

まあいいわ
世界は今日から雨なんだから
傘よりレインコートよね

でも、なんで
ロバちゃんは女言葉になったのかしら *25

ふん
役者だからよ

俺はさあ、でも、いいんだけどさあ
可愛くない
可愛い方が絶対良いと思うの
だって可愛いんだから

ぶんぶん
壊れた頭
壊れた頭

もう時間の感覚も失ったよ
もう空間の感覚も失ったよ

そのかわり
生命という感覚が溢れ出し
心の中に爽やかな風が吹き
吹き
吹き

音と色彩が意味から離陸して
光速に達した神経伝達物質は
発火するの
発火するの
発火するの

そして私のライターは
セブンスターに
着火するの
着火するの
着火するの

日常ですって？
こんな斬新な日常はないわ！！
これは奇跡よ！！

奇跡の軌跡がこの奇石

指輪は無いけれど・・・

それは問題じゃない
指輪が無いなんて
石は何でも知っているのよ
いっしっしっ、ってね

そうよ
今日からはずっと雨
雨は心を必ず溶かす

雨の中を生きるの
そうだ、あなたにミドルネームをあげる

私も同じミドルネーム
レイン、よ
レイン
レイン
レイン
レイン

*23 結界：俗の領域から区り切られた聖なる領域。

*24 女教皇：タロットにおける大アルカナの1枚。

*25 ロバちゃん：ロバートのあだ名。

第三幕

1. 世界という奴は

世界という奴は理屈ではない
理想論を言ってもはじまらない
犯罪、戦争、殺人、裏切り、貧困、災害
すべてが現実なのだ。

建前がどうであれ、受け入れるしかないのだ
感情や理論は別にして

世の中が楽しいのも
人生が楽しいのも
それが現実だからだ

きっと、天国ほどつまらないところはないだろう
もっとも、地獄はいやだが

つまらない目標
嘘で塗り固めた体裁
そしてまた、それを守るための労力

いったい何をしているのかと思う
守るものが多すぎる

守るには非力すぎる

来年もまた消耗戦なのだろうか
いや、打開策はあるはずだ

心と体に正直になること
捨てること

うむ
何を

微妙・・・

2. ドレミの歌

今日は勉強、ドドドドド
ちょっと疲れて、レレレのレ
みんなが待ってる、ミミミのミ
ドレミの歌の出来上がり

今日は新しい出会いがあった
それは素晴らしいものだった

そしてちょっと思ったね
思想や哲学で世界は変わるのかって
政治や経済で世界は動いてるのかって

どうなんだろう

ちょっと違う視座が必要かなって *26

今日は、ブログにデビューした
それは私のプラットフォーム *27
書くんじゃなくて使うんだ

まあ、ちょっとは書くけどね

今度買う本いろいろさ

スポンヴィルの「資本主義に徳はあるか」

そんなもの買う金、もったいなくない？

書棚の本がガラクタに見えてきた

本の市場なんて・・・

世界のGDPの何%？

経済学なんて政治の道具？

心理学はカウンセラーのためのもの？

変化、変容、変態、変貌

明日の朝、目が覚めて

鏡を見ると別人だとか

ある、ある、ある

*26 視座：社会を見る視点。

*27 プラットホーム：IT用語。基本となる環境全般を意味する。

3. 新しい世界に向けて

成就する事を夢見る喜びの方が
成就する事の喜びよりも大きいならば

夢を見る喜びの方が
現実の快樂よりも大きいならば

ただ、捧げ
ただ、尽くし
何も求めないなど
簡単なことだ

貴方は私に何を求めているの？
唐突にそんな質問をされた経験は無いだろうか？
唐突にそんな質問をした経験はないだろうか？
唐突にそんな質問をしてみてもはどうだろうか？

癒し
笑い
官能
そして・・・

同じ問いで切り返してはどうだろうか？
ああ、そんな微妙な駆け引きの

何と楽しいことか

明日は誰にもわからない
自転車操業で生きる楽しさ
それこそが人生の面白さだとしたら
何と多くの人が
その面白さを知らないでいるのだろう

先のことなど考えず
気分次第で行動する
そんな世界の方が
楽しく健全に思えてしまうのは
きっと良い傾向なのだろう

染まって行く感覚
少しずつ染まって行く感覚

その感覚に酔いながら
新しい世界へと向かおう

4. 雇用主義に終止符を

一期一会の twitter、一晩だけよと燃えて行く *28

そうだ

そろそろ「雇用主義」に終止符を打とう

雇用とは最後の奴隷制度にして、最大の福祉制度

文明はニートを生み、文化は花ひらく

有能と無能のメルクマールは、馬鹿を使えるか否かである

*29

世界は、つぶやきで出来ている

まるで燕の巣のように

人間は、いつか「勘」とは何かを理解できると考えている

これを「勘違い」と言う

人生は短い

のんびり行こう

悲しい中にも幸運がある

さびしい中にも喜びがある

巷に溢れる成功本というやつはだ

落ちこぼれを慰め、癒すためにのみある
と言っては怒られるだろうか

そうして、また弱者は強者に金を払うのだと

文明が進歩したんだ
必要な労働も雇用も、どんどん減るだろう
新しい社会システムが必要なんだ

でも、それには数十年かかる
国家に期待するのではなく、自力で生き伸びないとか

平凡な日常を楽しめるなんて、羨ましいよ
まあ、たまには平凡な日常も悪くはないのだが

*28 twitter : ブログとチャットの性格を併せ持つ世界的なコミュニケーションツール。2008年にサービスがスタートした。

*29 メルクマール : 指標、目印

5. 絶望

絶望に誇りを
その絶望は崇高なものだから

病んでいる自分を誉めよ
人間とは病める動物なのだから

旅に出よ
見知らぬ所へと向かえ

明日が明日であるために

6. 生の敗北

壊れるべくして壊れるもの
そう、すべてのものは壊れるのだ

怖れる必要が、どこにあるだろうか
いったい何を守りたいのだろうか

安心と安全、あるいは安らぎやゆとり
またはプライド？

くだらないよ
それよりも、刺激的な今が欲しいのさ

興奮と熱狂が欲しいのさ
明日は、あるかないか、分からない
覚悟というか、考え方の問題だな

多数派や平均と比較する人が大嫌いだ
人生の光は一瞬
それは、どこで発生するか分からない

やけくそ
自暴自棄
そういう言い方も出来るかもしれない

しかし、見方を変えると目覚めたのかもしれない
働かないという生き方があっても良いと思う
私は、狂ってしまったのだろうか

狂うとは何か
時計が狂うように
それは外れることだ

外れない人生なんて、楽しそうに見えない
一生懸命、社会的価値観に隷従し
自らの「地位」に固執するなど
洗脳された信者のすることであり
生の敗北だ

私は敗北の過去と訣別することにしよう

第四幕

1. ロバート音頭

寄ってらっしゃい
飲んでらっしゃい
食べてらっしゃい

らっしゃい らっしゃい わっしょい わっしょい
あい あい あい あい
ほい ほい ほい ほい

夢見てらっしゃい
休んでらっしゃい
遊んでらっしゃい

らっしゃい らっしゃい わっしょい わっしょい
あい あい あい あい
ほい ほい ほい ほい

もっともっと もっともっと
回して 回して
キュットいって キュットいって
ドンドン チンドン

バブルで良いのよ

ほい ほい ほい ほい

あい あい あい あい

ほい ほい ほい ほい

あほい あほい

それで良いのよ

あほい あほい

賢い奴なんてつまんねえ

まじめな奴なんてつまんねえ

おれたちやただの人間さ

あほい あほい

ほい ほい ほい ほい

あい あい あい あい

ほい ほい ほい ほい

一日満足 一生満足

そっ・そ・そっ

2. 壁は幻想

風が吹いてきた
北東からは乾いた冷たい風が
南からは湿った熱い風が

風と風が衝突し
風はカオスに従って *30
新しい風になる

空は晴れている
雨も雷も竜巻もない

誰かが、こちらに向かって歩いて来る
また別の誰かも

出会い
それは
出会い

止まっていた腕時計が
突然に動き出す

さあ
今度こそ慎重に

今度こそ冷静に

そして

適当に

ケ・セラ・セラ

ケ・セラ・セラ

それは呪文

呪文だってさ

占いや宗教は流行らない時代なのに

そうだ

歩こう

歩こう

どこへでもなく

ただ歩こう

壁の無い時代に

幻影を作る必要はない

閑居にして善あり

閑居にしてこそ善あり

自由の中にあって
矩を超えず

今、パラダイムが変わりつつあることを知る
壁はもうない

ただし、幻影としての壁が
今も多くの人の中にある

それを忘れると
危険かもしれないし

*30 カオス：数学用語。定義は研究者によって異なる。(笑)

3. 飛ぶ時

飛ぶ時は山の上から
木の上からでは無理だって
誰かがそう言った

飛ぶ時
その時はいつだろう

今この時
それとも
明日、明後日、明々後日

飛ぶ時
そのイメージを膨らませて
いつでも飛べる態勢を作って
飛ぶ時を待つ

飛ぶ時
それは
自然にやってくる
賢人たちは
皆そう口を揃える

日を決める必要はない

その時は
自然にやってくる

4. 国会へ

陳腐な言葉の配列を詩と呼んではいけない。
詩は国会議事堂の中での叫びになるはずだ。
詩は音に声に風に鉛に超台風と流砂になる。
アルコールの種類などどうでも良いことだ。

泥酔し糞尿を垂れ流し嗚咽し転倒するのだ。
意識という呪いから解き放たれた魂の真実。
真実は存在しないという言説の崇高な虚偽。
署名捺印された公文書を間違って焼却した。

ストーブが爆発したというのは有名な話だ。 *31
政府が軽々しく歴史に言及するという嘔吐。
メディアは鸚鵡のようにリピートするのみ。
運が良くても貴方はいずれくたばるのだよ。

人生という軽い言葉を詩に用いないように。
同様に生活だとか日常だとかも禁句なのだ。
そんな常識も知らずに詩を書く笑いもの達。
あああああああああの方がましなのさ。

貴方の発散に共感する深い魂がいくつある。
最後に地球に残るのは火山からの煙と灰だ。
水という水は凍り彗星が衝突し軌道が変る。

わたしたちの魂は宇宙の外から地球を愛す。

殺戮と拷問の歴史を振り返り嗚咽し投げる。
投げられた缶コーヒーが老人の頭にあたる。
老人の頭に瘤ができ赤く腫れあがりそして。
そしての後を書くのは詩におけるタブーだ。

タブーを知らない家畜人ヤプーの詩は無用。 *32
詩学を学ばずに詩を書くことの滑稽も結構。
詩学より歯学の方が歯医者には必要なのだ。
場末泡沫の陳腐な日常は何も生まないのだ。 *33

野田と言えば醤油だが刺身と言えば銚子だ。
詩の役割は時代を引き裂くことだと知ろう。
その言葉は計算し尽くされたものでないと。
言葉の計算こそ詩学のイロハニホヘなのだ。

無知は笑われることもなく無視されて終る。
さあ歯学でも私学でも史学でも詩学でもう。
なぜ時代を引き裂きたいのかを問い直そう。
分子構造を緻密に描き解体の方程式を解け。

抵抗と対立あるいは欺きと偽りの鬼ごっこ。
すべてを遊びだと悟り熱い闘魂を撃つのだ。
すべてを遊びだと悟り熱い闘魂を撃つのだ。
大人しい顔をして騙し一撃で仕留めるのだ。

沈潜し沈潜し沈潜し沈潜し沈潜し沈潜する。
ある時は精神病院である時は牢獄の中にも。
前時代の気分を引き摺ることは許されない。
詩学は数学にして反哲学でもあり物理学だ。

さあ始めよう緻密な分析と計算と諸作業を。
すべてを遊びだと悟り熱い闘魂を撃つのだ。

*31 某氏が機密文書を自宅のストーブで慌てて焼却中にストーブが爆発したという話に基づく。

*32 家畜人ヤプー：沼正三の長編小説のタイトル

*33 場末泡沫：ロバートが一時期使用していたニックネーム。

5. ロバート街道ばく進中

なんたって、ここは「ロバート劇場」ざんすよ。
良いですか？

さあてと。
どう説明したら良いのざんしょ。
ロバート街道を。

兎にも角にも。
そんな感じで不眠症。
困ったもんだわさっさのさ。
どうしてくれんのよ。

あああああああ。
えええええええ。
あんた。
誰に喧嘩売ってんのよ。

売られた喧嘩は買わねばならぬ。
それが男の生きる道。

いやだわ。
私、女ですもの。
と、女になってみる。

馬鹿。馬鹿。馬鹿。

大馬鹿。

そんな安い物、買わなきゃ損じゃない。

安物買いの銭失いと言うじゃない。

馬鹿。馬鹿。馬鹿。

大馬鹿。

いよいよだわ。

3月15日。

昨日私は生まれ変わったのよ。

いいわね。

ついにボールに包まれた本体が見えて来るのよ。

ドキドキ

ドキドキ

ドキドキ

ちよっとっだけよ、じゃ終わらせない。

世界に目にももの見せてやる。

駄目よ。

駄目、駄目。

その攻撃性が駄目。

羊よ。

子羊よ。

でも、舐められるのも危険。

悩めます～。

馬鹿。

馬鹿。馬鹿。

もう、そんなのどうでも良いって、知らないの？

無知。

無知。無知。

鞭。

貴方には武士の血が流れえているのよ。

貴方には書家の血が流れているのよ。

貴方には学者の血が流れているのよ。

貴方には農民の血が流れているのよ。

貴方には画家の血が流れているのよ。

貴方には外人の血が流れているのよ。

血が流れているのよ。

血が流れているのよ。

血が

血が

血が

流れて

流れて

流れて

いるのよ。

貴方の身体の中には血が流れているのよ。

私の身体の中にも血が流れているのよ。

さあ、行こうぜ。

ロバート街道を。

6. ある一日

そんな日もあるさ。
ん。それで終わり？

...

あとがき

この作品集は、2005年から2010年の作品の中から、面白いものを厳選し、初出に係わらず構成を考えて並べ替えたものです。

詩集と呼ぶのか、戯曲なのか、独白なのか。狂気と戦い、現実と戦い、そして自身と格闘する滑稽な姿を読み取っていただければ、作者としてこれにまさる喜びはありません。

私にとって、詩とはある種の発作です。次に詩を書くのがいつになるのかは予測もつかないのです。詩を書くこと。それは生の営みでも、宿命でもなく、発作。貴方がもし、そんな発作に興味を持たれるならば、それは何故なのでしょう。

わかりません。私は面白いと思っていただければ、それで良いのです。ましてや、お腹を抱えて笑っていただければ！！

ここまでお読みいただいた方に心より感謝申し上げます。

2011年4月 白井 京月

筆者経歴

1961年、日本生まれ。男性。

1984年、某有名企業に入社。

2011年、同社を退職し独立。

白井京月（しらいきょうげつ）は詩人ネーム。本作品は、詩人としての処女出版である。